

# 「イメージ表現」

## 実技講習会

次の言葉とモチーフからイメージすることをアクリルガッシュを使って画面に表現してください。  
なお、モチーフは画面の中に必ずそのモチーフとわかるように表現してください。  
モチーフの色合いや個数などは自由です。

言葉：「遊び」 モチーフ：「チューブ」

**画用紙：B4画用紙 横位置 全面**

塗り残すことなく描いてください。  
画用紙の白い部分は残さないようにしましょう。

**使用絵の具：**アクリルガッシュで。持って来ていない人には貸し出します。  
(適性検査はアクリルガッシュの12色または18色セットです。)

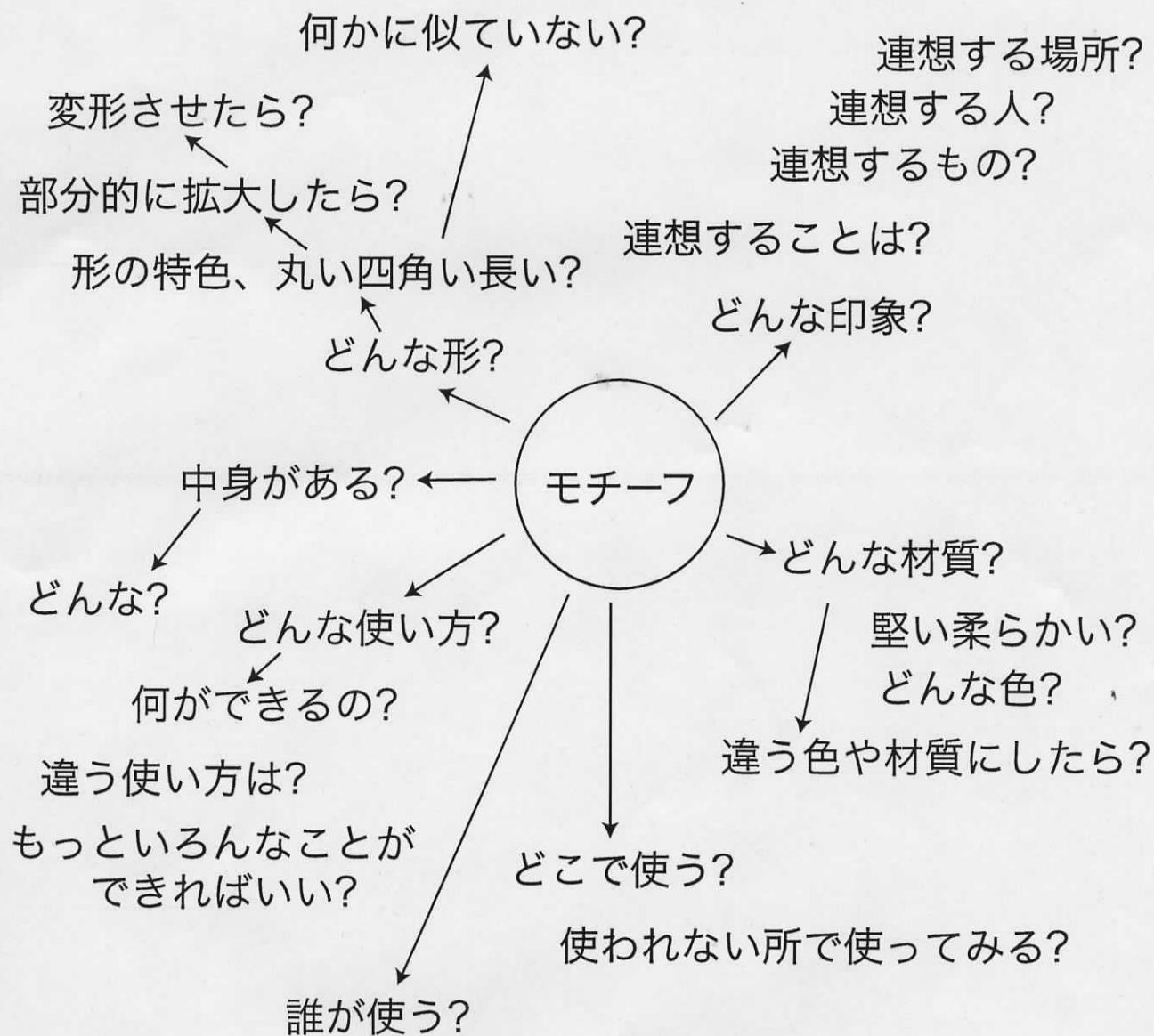
★講習終了後の講評会で、希望すればできあがった作品の講評を受けることができます。

# チューブ

- ・チューブの中に何が入っているか
- ・何のために使うか
- ・いろんな大きさを考えてみよう
- ・どんな場所にあるか

## モチーフからイメージを広げるために

大きさを変えてみたら？



## アクリルガッシュの使い方

アクリル絵具のアクリル樹脂液を少なくして、顔料（色の粉）を多くしたのがアクリル絵具です。乾燥が早く、また乾くと水を加えても溶けません。また、乾いた画面はザラッとしたツヤのない色になります。

### ■特徴

広い面を均一に塗れます。乾くと筆むらが出にくいので、広い面を綺麗に塗るときに便利です。

初めに塗った面は乾燥後、その上に塗り重ねても下の色が溶けないので、色が混ざらず綺麗に塗れます。

透明水彩絵の具と異なり、薄く溶いて塗り重ねても（重色）あまりきれいな効果は出ません。

また、紙に乗せた色が乾かないうちなら、画面の上で混色が可能です。

### ■注意すること

#### ◆すぐにフタを

アクリル絵の具はすぐに固まり始めます。必要なだけとったらすぐにキャップをしめましょう。

口まわりが汚れたまま強く締めてしまうと次回開ける時にキャップごともげてしまうこともあります。

#### ◆絵の具は使い切る量を出しましょう。

アクリル絵の具はすぐ固まります。ほんの少量を出して使いきります。使わないまま置いておくと固まって使えなくなります。

#### ◆筆をよく洗う、放置しない

筆は天然素材でなく、コシのある筆が向いています。

また、固まるのが早いので、筆について固まつたら筆が使えなくなります。水では溶けません。

手から離すときは必ず筆洗で洗うようにしてください。

#### ◆パレットには注意

プラスチックパレットを使うと乾いた絵の具は洗っても落ちません。

画材店で売られている紙パレットが便利です。

## アクリルガッシュの特色を利用して、効率良く描く方法

アイデアスケッチができたら、

- できれば下書きも時間をかけないため、あまり細かな所までは描かないようにします。

着色すると下書き線が消えてしまうこともあります。最初はおおまかな下書きでよいでしょう。

- 色を塗る順番を考えましょう。

いよいよ本紙に、まず広い面を塗っていきましょう。

- 背景など、大きな面積の部分を思いきって塗っていきます。

筆は太目または大き目の平筆などを使って塗りましょう。

水を多い目にして透明水彩風でも構いませんが、水が多くなると乾きが遅いので注意。

広い面積を塗るのでパレットには多い目に色を作つておきましょう。

パレット上で混色したり画用紙の上で混色するなど色合いに変化をつけるようにします。

画板やカルトンが汚れても気にしないで。画面の端は外へはみ出るくらいの勢いで塗りましょう。

- 鉛筆で下書きが消えたら、絵の具が乾いてからまた描くことができます。

次いで、それぞれの部分の描き込みを。

- 順番に色を塗りわけていく方法もありますが、広い面積を塗った後、どんどん塗り重ねるようにします。

思い思いの部分から塗っていって構いませんが、中心になるような所から進めていくと良いでしょう。

基本的には明るい色から塗りますが、塗り重ねがきくので暗い色からでも構いません。

- 色を塗り替える場合は、一旦乾いてから少し濃いめの色で塗り重ねれば大丈夫です。

- 全体が仕上がってたら、表現したい部分が画面の中で映(は)えているか見直しましょう。